

# 袋井西地区

構成自治会連合会：  
袋井、川井、袋井西、田原、方丈



商業施設の立地や工業団地の開発により地域経済が活性化しており、祭りなどの伝統行事や袋井宿などの歴史資源が継承され、水辺や田園の自然も楽しめる豊かな地区です。住みやすさを大切にしまちづくりの取組も積極的に進められています。

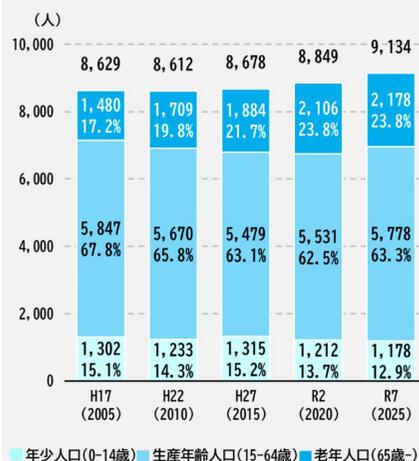
## 現状 (SWOT 分析「強み」から)

1. 東名高速道路の袋井インターやJR袋井駅などが近く、周辺地域へのアクセスが良好です。
2. 幹線道路に沿って商業施設が立地し、日常の買い物や生活に必要なサービスが整っています。
3. 幼稚園や小学校、中学校などが地区の中央部にまとっており、教育環境が整っています。
4. 地域活動や交流が盛んであり、人と人とのつながりがあるコミュニティが形成されています。
5. 袋井宿や澤野医院記念館などの歴史資源が保全・活用され、地域の祭りや木原大念仏などの伝統行事が継承されています。
6. 原野谷川などの川辺空間や田園風景が広がり、豊かな自然環境守られています。
7. 公共施設の集約や周辺のにぎわいにより、快適で暮らしやすい住環境が整っています。
8. 工業団地の開発と企業の立地により、地域の雇用や経済が活性化しています。

## 課題 (SWOT 分析「弱み」から)

1. 河川が多いことから、大雨による水害が心配されます。地盤も弱いので、災害時の避難体制や備えに対する不安があります。
2. 高齢化の進行などにより、自治会や地域活動における役員や担手の確保が難しくなっています。
3. 地域に暮らす外国人が増加しており、相互のコミュニケーションや交流の促進が求められています。
4. 公共交通機関が限られており、車がないと買い物や通院などに不便を感じている地域があります。
5. 幹線道路は、トラックなどの交通量が多く、歩行者や自転車利用者の交通安全対策が必要とされています。
6. 地域によっては、少子高齢化による人口減少や空き家・空き店舗の増加が課題になっています。

## 人口推移



## まちづくりの方針図



## スローガン 目指すまちの姿

## 愛とつながりのある 幸せなまち

## まちづくりの推進方針

### 1. 災害に強く、安全で安心して暮らせる助け合いのまちづくり

住民同士が支え合い、防災・減災のまちづくりを推進します。互いに助け合い、誰一人孤立している人がいないまちづくりを目指します。

### 2. 多様な住民同士がふれあいを深め、地域を盛り上げるまちづくり

多様な住民が知り合える機会をつくり、住民同士が時間や体験を共有するとともに、地域への愛着を深めるまちづくりを推進します。

## 地域内の取組

まちづくり協議会主導

- 地域イベントやコミュニティセンターの活用で、コミュニティの場の拡充(ふれあいの場の創出、各種イベントの発信など)
- 外国人との交流促進(食の紹介など)
- まちづくり協議会や自治会活動の情報発信(SNSの活用など)
- 地域全体での子育て支援、学習支援

- 地域の防災対策の強化(地元企業との連携、夜間の防災対策強化、災害弱者対策)
- ハザードマップの活用に向けた講習会などの開催
- 高齢者が移動手段として、公共交通を選ぶ仕組みづくりの検討
- 地域の団体と部活動・地域クラブの連携
- どまん中茶屋の活用
- 伝統芸能の保存と活用(木原大念仏)
- 指定文化財の保存と活用(澤野医院記念館)

行政主導

- ◇ 蟹田川排水区整備事業
- ◇ 市道柳原彦島線整備事業
- ◇ 都市計画道路川井徳光線整備事業
- ◇ 土橋工業用地開発事業

○ まちづくり協議会が主導する取組 □ 協働による取組 ◇ 行政が主導する取組

## 地域のみなさんの声 (取組を進める上で参考となる意見など)

- 袋井駅南や愛野駅は見違えるようになった。旧街道沿いも古い街並みを活かしつつ、リノベーションなど子どもや高齢者が集える場所になると活気が出ると思う。
- 外国人との交流は、子どもをきっかけに、家族で交流できるとぐっと身近に感じられるのではないかな。
- 一人暮らし高齢者が増えており、地域での見守りや声掛け、孤独を感じさせない取組が必要だと思う。
- 全国各地で地震やゲリラ豪雨など、想定していなかったことが頻発している。袋井西地区には5つの河川があるので、液状化や水害などについて防災体制の強化や災害弱者対策が必要である。
- 年2回の防災訓練について、内容や時間帯などの見直しや工夫が必要ではないかな。
- 袋井西地区では、彩雲プロジェクトで「まちづくりプラン」を作ったので、総合計画の地域編は「まちづくりプラン」と整合性をとった方がよい。
- 地域と小中学校とのつながりが薄くなってきているので、世代間交流の機会があるとありがたい。
- SNSやスマホなどを活用して、まちづくり協議会・自治会の情報や活動を見える化し、若者にも知ってもらいたい。

(R6.9 ふくろいスマイル座談会、R7.5 総合計画「地域編」ワークショップより)